

## 池田市教育委員会活動点検評価委員会 議事録

1. 日 時      令和8年1月21日(水) 10:00 ~ 12:00

2. 場 所      池田市上下水道庁舎3階 研修室

3. 出席者

役 職	氏 名	所 属 等	
委 員 長	藤原 一秀	元関西外国語大学 教授 元池田市立学校 校長	
副委員長	今川 恵美子	石橋文化幼稚園 副園長 元池田市立学校 校長	
委 員	服部 太	大阪青山大学 准教授	
	岸上 秀生	市立学校園 PTA 協議会 会長	
	福島 輝彦	市立北豊島小学校 校長	
	磯村 悟史	市立池田中学校 校長	
特別委員	荒河 隆文	市立ほそごう学園 校長	
池田市教育委員会			
	藤井 彰三	教育長	
事務局	西田 忠由	管理部	管理部長
	上西 正行		教育総務課 課長
	光武 記代		学務課 課長
	五十嵐 章		学校施設マネジメント課 課長
	安原 宏一	教育部	教育部長 兼 教職員課長事務取扱
	和泉 綾子		教育政策課 課長
	田阪 佑樹		人権教育監 兼 学校教育推進課 課長
	北端 啓司		教育センター 所長
	淵田 正尚		教育センター 副所長
	藏田 耕平		教育センター指導主事
	前野 哲也		生涯学習推進室 室長 兼 社会教育課 課長
	齋藤 宏太		生涯学習推進室地域教育課 課長
	上西 雅子		教育政策課 主幹
	中野 正敏		教育政策課 副主幹
	梶田 幸三郎	教育政策課 指導主事	
	梶原 俊	教育政策課 指導主事	

#### 4. 案件

##### 【委員長】

「池田市立義務教育学校の取組み」について、事務局が作成した資料をもとに、項目1から7まで、意見交換を行いながら進めさせていただきます。それでは、事務局より説明をお願いいたします。

～ 事務局より審議資料の説明 ～

##### 【委員長】

ただいま、資料項目1から7までの内容について説明をいただきました。ほそごう学園のこの10年間の取組みは、池田市にとって新たな教育の取組みでございます。同時に、今後の池田市の教育の在り方を考え、探っていくうえでの重要な論点であり、意義のある実践でもございます。

このような観点からも、本件は池田市全体の教育に関わる重要な案件でございますので、委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

□項目1「学校の概要と設立」について

##### 【委員】

ほそごう学園は特色ある学校として捉えられており、その存在は保護者の皆様からも関心をもって受け止められてきたものと考えています。

また、学力に関する部分については、数値を掲載しないという判断は理解できますが、課題意識として整理されているのであれば、現状がより明確に伝わる表現とすることが望ましいのではないかと感じました。

##### 【委員長】

数値を提示するための準備は教育委員会として進めているところですが、提示の在り方については慎重に検討する必要があると考えています。結果を示すことは重要な視点だと思います。

一方で、背景や要因の説明が十分でないまま数値のみが示されると、単に結果だけで評価されてしまうおそれもあります。そのため、数値の提示に当たっては、その背景や要因も含めて丁寧に説明することが重要であると考えますので、その点について教育委員会から補足説明をお願いできますでしょうか。

##### 【事務局】

ご指摘の学校の学力に関する数値についてですが、ほそごう学園に限らず、いずれの小学校・中学校においても、学校ごとの数値は公表するものではないという方針に基づいております。そのため、今回の資料についても、審議に当たり、可能な限り数値での提示について検討いたしました。原則に立ち返り、数値の掲載は控えさせていただきました。ただし、ご指摘の

とおり、より分かりやすい表現とすることは重要であると考えておりますので、今後、表現の在り方について改めて検討してまいります。

#### 【事務局】

先ほどご指摘のありました入学者数については、毎年度、推計という形で、おおよその入学者数を予測している資料がございます。これにより、当該校において今後どの程度の入学者数が見込まれるかについて把握することが可能です。これらの推計資料をどの範囲まで公表するかについては、今後の検討課題ではありますが、審議資料として活用することは可能であるとと考えております。

#### 【委員長】

今後の人口推移については、教育委員会として把握しておくことが不可欠であり、今後の政策立案を行う上でも極めて重要な事項であると考えます。人口動向を踏まえた教育方針を検討するためにも、継続的に状況を把握していく必要があります。

また、特色や魅力のある学校づくりをどのように進めていくのか、言い換えれば、どのような取組を行えば子どもや保護者に選ばれる学校となるのかといった観点についても、今後重要な論点になると考えます。

つきましては、こうした点についても、委員の皆様からご意見をいただきながら検討を進めていきたいと考えております。

#### □項目2「9年間を通した教育の連続性」について

#### 【委員】

「教育の連続性」という言葉がありますが、9年間を見通した連続性を大切にしていくことは、非常に重要な視点であると考えています。池田市には5つの学園がありますが、その取組みを牽引してきたのが、ほそごう学園であると感じています。

コロナ禍を経て、様々な制約や分断もあったかと思いますが、一つの学園として、9年間の学びの連続性を意識した教育を継続してこられたことは、大いに評価できる点であると考えます。

また、本資料を拝見し、この10年間で様々な変化があったことは当然のことではありますが、その中においても、人権総合学習を継続して実施されてきたこと、さらに、学園として育成を目指す「6つの子どもの力」が着実に伸びてきていることは、重要な成果であると考えます。

ほそごう学園は、池田市の小中一貫教育を牽引する存在であり、市内の小・中学校にとっても学ぶべき点が多くあると感じています。

#### 【委員】

9年間の教育の連続性という観点から、この10年間、試行錯誤を重ねながら取組みが進められてきたことが強く感じられました。施設一体型であるがゆえの難しさや、逆に取り組みやす

い点などについても、試行錯誤を重ねながら現在に至っているものと感じています。

また、「6つの力」の育成に取り組んでこられた中で、教科の力との関連が十分に見えにくい部分もあり、特に、自分の考えを表現する力の育成については課題があるのではないかと感じました。こうした課題は言語活動の一層の充実を図る取組みとも関係しているのではないかと考えます。

今後、これらの力をどのように体系的に育成していくのかについては、重要な論点であると感じています。また、子どもたちの生活背景なども踏まえた多面的な視点からの分析や取組みも必要ではないかと感じました。

さらに、池田市全体の小中一貫教育として、目指す姿や到達目標が明確に設定されているのであれば、その内容について教えていただきたいと思います。現在検討中の事項があれば、今後の方向性も含めてご教示ください。

#### 【事務局】

学力の数値として顕著な向上が見られている状況には至っていませんが、基礎学力の部分における課題については認識しているところです。学校においては、学力向上に向けた取組を進めていただいております。今年度からは大阪府の支援も受けながら、実効性のある計画のもと、主に授業づくりの工夫を中心とした取組を進めているところです。数値として大きな向上が直ちに表れる状況には至っていないものの、学校内においては一定の改善の兆しも見られており、継続した取組が重要であると認識しています。

教育委員会としては、今後も学校と協働しながら、学力向上に向けた取組を継続的に支援してまいりたいと考えています。

#### 【事務局】

続きまして、池田市内の小中一貫教育についてですが、この10年間、本市の重要な施策の一つとして取組を継続してまいりました。教職員同士の交流や子どもたち同士の交流については、コロナ禍の影響により一時的に途絶えたり、取組が停滞したりする状況もございました。

そのような状況を踏まえ、昨年度の検証において、今後どのような視点を大切にして取組を進めていくかについて整理を行い、「つながり」を重視するとともに、授業研究を中心とした取組を推進していく方向性を確認いたしました。

今年度は、各学園において授業研究や相互授業参観を定期的実施することにより、発達段階に応じた指導方法や評価の視点について共通理解を図る取組が進められており、そのような実践が広がりを見せています。これらの取組は、池田市の小中一貫教育の特色の一つであると捉えています。

一方で、池田市の小中一貫教育における特色については、今後、小中一貫教育を本市の教育の柱として一層推進していくためにも、その内容をより明確に整理し、発信していく必要があ

ると認識しています。

#### 【委員】

夢を持っている子どもの割合が下がっていることが一見して分かる資料となっておりますが、他の項目については、割合が大きく向上していることも確認できます。自分で考え、主体的に取り組むことができる力は、現在の子どもたちにとって非常に重要なものであり、そのような力が育まれていることが、この資料から読み取れるのではないかと感じました。

資料の構成としては、肯定的な変化や成果が伝わる内容を先に示すなど、成果が伝わりやすいよう工夫することも必要ではないかと感じました。

また、夢や目標を持つこと背景には、子ども一人ひとりの置かれている状況や環境も影響していると考えられることから、その背景や状況を踏まえた支援やフォローの在り方についても検討する必要があるのではないかと感じました。

#### 【委員】

最近、SNS等において、児童・生徒が暴力的な行為や犯罪を想起させるような内容を発信している事例が見受けられ、非常に憂慮しています。そのような状況の中で、ほそごう学園の取組みを拝見し、縦のつながりを大切にしている点は非常に重要であると感じました。

例えば、上級生が下級生を支えたり、教職員以外の多様な関わりの中で子どもを見守ったりすることは、子どもの成長にとって大きな意味を持つものであり、こうした取組みは今後さらに期待されるものではないかと感じました。

また、学力の向上に向けた取組だけでなく、余白のある学習活動を大切にしている点も印象的でした。そのような活動が、子どもたちの人権意識や他者理解の育成につながっているのではないかと推察しています。

全国学力・学習状況調査の結果は重要な指標の一つではありますが、学力（豊かな学び）は点数のみで測ることができないものではありません。数値では表れにくい学びの成果や成長を、どのように言語化し、適切に伝えていくかは重要な課題であり、今後、整理していく必要があるのではないかと感じました。

#### 【委員長】

研究の3本柱（人権教育・集団づくり・学力保障）については、成果が上がってきていると感じています。

一方で、この三つの柱をつなぐ「ツール」が十分に見えていない点が気になっています。具体的には、対話する力や資料を読み取る力などを通して三つの柱を関連付けていく「明確な手段」を、どのような状況においても一人ひとりの力として確実に身に付けさせていくという視点が、やや見えにくいことが課題であると感じています。

また、学園ならではの特色についても触れたいと思います。これほど充実した環境を有して

いる学校は市内には他にありません。この環境を最大限に生かしていくことが、今後の学園の教育のさらなる発展につながると考えます。そのためには、子どもたち自身や教職員が、学園の教育環境や取組みに誇りを持つことが重要です。その誇りが子どもに浸透し、さらに地域へと広がっていくことで、学園の教育の価値が一層高まっていくものと考えます。今後の課題として、ぜひ意識して取り組んでいただきたいと思います。

#### □項目3・4「学年区分と特色ある教育実践」「一貫した教育支援体制」について

##### 【委員】

ほそごう学園では、3ステージ制を導入しており、それぞれのステージでリーダーとしての経験を積むことができる点が利点であると説明がありました。しかし、制度の具体的な内容を知らない方にとっては、その説明だけでは、どのような場面でその効果が発揮されているのかが見えにくいと感じます。制度の有効性がより具体的に伝わるよう、実際の事例について説明していただきたいと思います。

また、特色ある教育実践として、学びや育ちの連続性を重視した教育システムづくりについて説明がありましたが、これは小中一貫教育の開始時に示された基本方針に基づくものだと理解しています。この基本方針が、この10年間でどのように発展・変容してきたのか、また現在も継続している内容と、見直しや改善が図られてきた内容について整理し、示していくことが重要であると考えます。学校を取り巻く社会状況や教育制度は大きく変化しています。そのような変化を踏まえながらも、継続して大切にしている点や、新たに取り入れてきた取組みについて、教育委員会として積極的に発信していくことが望ましいと考えます。

##### 【特別委員】

ステージ制の利点として、子どもたちが在学期間中に複数回リーダーとしての役割を経験できる点が挙げられます。

ファーストステージ(1・2・3・4年生)では、4年生が主体となって「げんキッズ」活動を実施しており、1年生の給食準備や清掃活動への支援、「げんキッズ」集会の運営などを通して、下級生と関わる機会を意図的に設けています。これにより、4年生が学校の中で主体的に役割を担う場面を創出しています。

セカンドステージ(5・6・7年生)では、前期課程から後期課程への移行期にあたる重要な時期であるため、その円滑な接続に向けた工夫について継続的に検討を行っています。具体的には、5年生と7年生が合同で宿泊行事に取組み、異学年間での交流を通して、上級生としての自覚や責任感を育てています。また、委員会活動についても5・6・7年生で運営しており、特に7年生が中心となって活動を推進することで、ミドルリーダーとしての意識を育成しています。一方で、6年生は最高学年ではないことから、役割意識が希薄になりやすい側面もありま

す。そのため、6年生と1年生を同じフロアに配置することで、日常的な関わりを促進し、下級生の模範となる意識や思いやりの心を育むよう工夫しています。

サードステージ(8・9年生)では、体育大会や文化祭などの学校行事において中心的な役割を担うことで、学校全体を牽引するリーダーとしての資質を育成しています。このように、各ステージに応じた役割を設定することで、子どもたちが段階的にリーダーシップを身に付けることができるよう配慮しています。

#### 【委員】

6年生が1年生と同じフロアで生活することで、より主体的に行動しようとする姿が見られるという点は、大変意義のある取組みであると感じました。このような経験を積んだ教職員が他校へ異動した場合でも、その経験を生かして指導に当たることができると考えます。4年生の段階からリーダーとしての経験を積ませることができるとは非常に有効であり、市全体としても参考にすべき取組みであると感じました。

#### 【委員】

近年、義務教育学校は近隣地域においても増加傾向にあります。その中でも、ほそごう学園は先駆的な存在であり、これまでの取組みには大きな意義があると考えます。近隣の義務教育学校の取組みや成果について情報収集を行い、それらと比較・検証することで、ほそごう学園の特色や優位性がより明確になるものと考えます。

また、施設一体型小中一貫教育が、市内の他の学校にどのような影響を及ぼしているのかについても検証していくことが重要です。施設一体型と施設分離型のそれぞれの利点や課題を整理し、その有効性を客観的に評価することが求められます。他市や市内の学校との比較を通して取組みの成果や課題を明らかにし、今後の施策の充実につなげていくことが必要であると考えます。

#### □項目4「一貫した支援教育体制について」

#### 【委員長】

通学に関する保護者の負担について、特に交通費の負担軽減について検討の余地があるのではないかと感じています。

#### 【事務局】

特認校制度の児童・生徒については、公共交通機関を利用して通学しています。通学支援として、学年スクールパスいわゆる通学定期の半額を補助しています。

#### 【委員】

半額補助があるとのことですが、残りの半額については保護者の負担となるため、「経済的負担」という表現にはその点も含まれているという理解でよろしいでしょうか。

### 【事務局】

そのとおりです。半額は自己負担となるため、その点も含めて経済的負担という表現を用いています。

### □項目5「施設環境を活用した取組み」について

#### 【委員長】

施設環境については、教職員からも高い評価を得ています。日常的な交流を促進する空間や学習と直結した施設が整備されていることは、教育環境として大きな利点であり、今後の学校施設整備の参考となる取組みであると考えます。

本施設は、子どもたちのつながりという観点からも大変意義のあるものであると評価しています。

### □項目6「地域とともにある学校」について

#### 【特別委員】

これまで本学園は、地域とともに人権教育の充実に取り組んできた学校であると認識しています。紆余曲折を経ながらも、3校が統合し、「人権教育」および「地域とともにある学校」という理念を大切にしながら現在に至っていると感じています。

地域の方々からは、「子どものためなら何でも協力する等といった声が寄せられており、学校や子どもたちが地域に支えられていることを強く感じています。

また、地域の実情として、公共交通機関の利用経験が少ない子どももいることから、地域に出て体験することや地域を知ること、さらには顔の見える関係を築くことが重要であると考えます。将来、自らの地域に誇りを持ち、その価値を、自信をもって語るができる子どもを育成するためにも、これまで築いてきた地域との関係を大切に、今後も地域の方々と連携した教育活動を継続していくことが重要であると考えます。

#### 【委員長】

ほそごう学園では、児童・生徒の学習活動だけでなく、教職員自身が地域の学習や活動に積極的に関わっている点が大きな特色であると感じています。このような取組みは、「地域とともにある学校」の実現に向けた優れた実践であると評価できます。

本学園の取組みを一つのモデルとして、市内各校においても、地域とのつながりをどのように構築し、発展させていくことができるのかを検討していくことが重要です。人と人とのつながりを基盤とした教育活動の在り方について、本学園の成果を今後も継承し、市全体の教育の充実につなげていくことを期待しています。それでは、最後に項目7「総合評価と今後の展望」について、ご意見をお願いします。

## □項目7「総合評価と今後の展望」について

### 【委員】

転勤により新たに着任した教職員の中には、ほそごう学園の教育システムに円滑に適応することが難しいと感じる場合があると考えます。その背景には、従来の「6・3制」の教育課程に基づく経験から、「4・3・2制」のステージ制へと指導体制が変化することに伴う戸惑いがあるものと推察されます。そのため、本学園が実施している3ステージ制の教育活動について、教職員が十分に理解する機会を確保することが重要です。

また、本学園の教育システムや取組みの意義について、市内の教職員に対して積極的に周知し、情報発信を行っていく必要があると考えます。さらに、可能であれば、本学園以外の学校においても、その理念や取組みを参考にしながら実践を進めていくことで、「池田市としての小中一貫教育」の一層の充実につながるものと考えます。

今後は、本学園の成果と課題を適切に整理し、共有しながら取組みを推進していくことが重要であると考えます。

### 【委員】

本学園での取組みを経験した教職員が、異動後にその経験を十分に生かすことが難しく、従来の指導体制に戻ってしまう場合があるという課題もあると感じています。施設一体型であることにより実現しやすい取組みがある一方で、小中一貫教育の本質的な価値は、施設の形態に関わらず実現可能なものであると考えます。したがって、施設一体型・施設分離型の別に関わらず、池田市として大切にしている小中一貫教育の理念や実践の価値を明確に整理し、広く発信していくことが重要です。市全体として小中一貫教育の取組みがより一層連携・発展していくことを期待しています。

### 【委員長】

本学園の開校以来10年間にわたる取組みについて、本委員会の場において総括することができたことは、大変意義深いものであると感じています。これまでの成果と課題を踏まえ、ほそごう学園の取組みが今後さらに発展し、市全体の教育の充実につながっていくことを大いに期待しています。

## 5. 閉会